

弘前市立博物館 ニュースレター

No.3

令和5年8月号

Hirozaki City Museum Newsletter

■残暑お見舞い申し上げます

津軽の短い夏を焦がすねぶた祭り、そして、お盆も終わり、秋の涼しさを待つ季節となりました。今年の夏は酷暑で、弘前市は過去最高気温の39.3度を記録しました。毎日、外に出るのが億劫なほどでしたが、暑さにも負けず、たくさんの皆様にご来館いただき、感謝申し上げます。

『バカ』がつくほど愛してる。の展覧会はまだひと月ほど会期があります。映画「バカ塗りの娘」公開も近づいてまいりました。映画と併せて、展覧会もご観覧賜れば幸いです。

(館長 熊谷)

■友好都市の関係者が見学にいらっしゃいました

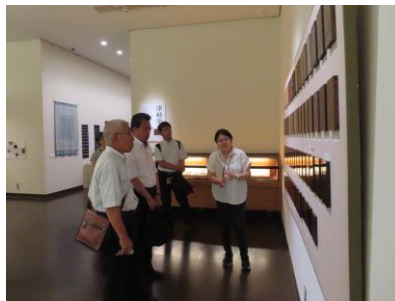
ねぶた期間中の8月1日と2日に、弘前市の友好都市である太田市の市長、斜里町の町長や議長がおいでになりました。

群馬県太田市は慶長5年(1600)の関ヶ原の合戦の功績により、弘前



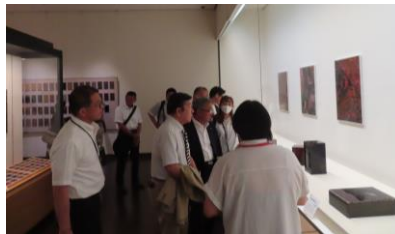
▲太田市長見学のようす

藩に与えられた飛び地領の中心地であったことが縁で平成18年(2006)に友好都市となり、毎年「尾島ねぶたまつり」も開催されています。



▲斜里町長見学のようす

▼斜里町議会議長見学のようす



北海道斜里町は文化4年(1807)の弘前藩士の北方警備が縁となり、同じく平成18年(2006)に友好都市となりました。斜里町でも夏には「しれとこ斜里ねぶた」が運行されます。(主事 児玉)

■企画展2『バカ』がつくほど愛してる。～津軽塗・こぎん・ねぶた～の見どころ／志功ねぶた見参 企画展2『バカ』がつくほど愛してる。』では、昭和46年(1971)に棟

方志功の描いたねぶた絵(陸奥新報社蔵)を展示しています。陸奥新報社が創刊25周年を記念して志功に依頼したものです。

鏡絵(表面)は、「天の岩戸」です。弟神であるスサノオの乱暴狼藉に腹を立てたアマテラスは天の岩戸に隠れ、太陽神であるアマテラスを失った世の中は闇に包まれました。そこで、アマテラスを外に出すために、アメノウズメ(鏡絵の右手に描かれている女性神)が舞い、アマテラスよりも尊い神がいると告げ、八咫鏡(やたのかがみ)を見せると、アマテラスは身を乗り出しました。そこで、タヂカラオ(鏡絵の左手に描かれている顔の赤い男神)が岩戸を開くとアマテラスが現れ、世界に光が戻りました。見送り(裏面)には「天照大神」が描かれ、袖絵(見送りの周りの絵)は、松竹梅と岩木山、そして弘前にゆかりの深い鷹(弘前の古名は鷹岡)が描かれました。

色彩や構図、題材など、志功ねぶたが弘前のねぶたに与えた影響は大きいものがありました。

このねぶたの陰の立役者は、ねぶた和尚と呼ばれたねぶた絵師・長谷川達温でした。達温の弟子である川村岩山氏によれば、志功の片腕を任された達温は、細部にわたるまで他

人の手伝いをさせず、自ら筆を入れる姿すら弟子たちにも見せなかつたと言います。



▲志功ねぶた展示風景

志功はねぶた絵師ではなかったので、志功の描いた絵をねぶた絵として完成させるためにはロウ描きや着色などの工程が必要で、志功も色の指示は出していたと思われるのですが、ロウ描きのほとんどは達温によるものです。岩山氏によれば、タチカラオの衣に五色雲を入れ、色彩を豊かにしたのも達温だといえます。このねぶた絵は「志功ねぶた」と呼ばれますが、二人の合作なのです。（『「バカ」がつくほど愛してる。」

担当学芸員 小田桐)

■学校・団体への展示解説を承っております

博物館では、小中学校をはじめとした各学校や団体の見学や展示解説を随時承っております。

今年度もすでに市内はもちろん、県外からの見学も受け入れております。

展示解説については常設展のみ・企画展のみといった内容のご希望や、解説時間のご希望などもご相談いただければご対応が可能です。

市内小中学校は人数に関わらず無料、市外の学校でも20人以上であ

れば団体料金が適応となります。ご利用の際は、事前にお電話でのお問い合わせをお願いします。

【問い合わせ先】

博物館 TEL:0172-35-0700

▼弘前市立第三中学校の見学対応



(主事兼学芸員 工藤)

■親子鑑賞会実施のお知らせ

博物館では弘前市内の小中学生と一緒にご来館の保護者1名の観覧料を無料にする「親子鑑賞会」を実施します。実施する期間は以下の通りです。

① 夏休み期間

(終了しました)

② 冬休み期間

令和5年12月23日(土)

～令和6年1月14日(日)

※12月29日(金)～1月3日(水)

は休館日です。

③ 「弘前子ども美術展」併催期間

令和6年2月10日(土)～

2月12日(月・祝)

来館時のご注意

来館時は、弘前市内の小中学校に在学していることがわかるもの(名札など)をお持ちください。

この機会に親子でじっくりと展示

を鑑賞するのはもちろん、夏休み・冬休みの宿題のヒントを探しに来たり、なんとなく見学したりするだけでも歓迎です。ぜひたくさんのご利用をお待ちしております！

(館長補佐 川村)

■受付のひとりごと

開催中の企画展『「バカ」がつくほど愛してる』では、津軽塗、こぎん、ねぶた絵を古作品と現代の作品を併せて紹介し、好評をいただいております。当館で販売中のグッズのなかから今回の企画展に関連するグッズを紹介します。



▲記念ポストカード(1枚100円)
県重宝「青海波文月千鳥蒔絵長手箱」や美しい「こぎん」「ねぶた見送り絵」
▼郷土歴史シリーズ3『竹森節堂ねぶた絵草稿』(税込400円)



津軽塗には塗り見本の手板が残されていますが、ねぶた絵の先人の一人である竹森節堂が残した下絵も、後継者への大切な資料として残されています。(事務員 小友)